2024年3月期　決算説明会　質疑応答概要

日　時：2024年5月20日（月）13：00～14：00	
出席者：株式会社日清製粉グループ本社	
取締役社長	瀧原　賢二
取締役　常務執行役員　経理・財務本部長	鈴木　栄一
IR・SR室長	井上　英司

Q：国内製粉事業について、2023 年度に収益性が向上した理由と、2024 年度の業績予想を減益とした理由について教えて欲しい。

A：国内製粉事業において 2023 年度に収益性が向上した要因は複数存在した。熊本製粉㈱買収による新規連結効果、前期にコスト上昇に対して価格転嫁が遅れた部分も含めた価格改定の実施、コロナ禍で悪化した製品ミックスの改善等が主な増益要因であった。また、一過性の要因としてはふすま価格が堅調であったこと等も挙げられる。
一方で、2024 年度は減益を見込んでいるが、2023 年度の業績好調の反動及び人件費や動力費等のコスト上昇を織り込んでいる。今後、国内製粉事業では様々な投資を行う予定のため減価償却費の負担が増加する見通しであるが、熊本製粉㈱とのシナジー効果の発現等により、さらに収益性を向上させたい。

Q：国内製粉事業の 2024 年度の価格改定において、人件費や動力費等のコスト上昇分を反映しない想定とのことだが、なぜ反映しないのか。

A：小麦粉価格改定は年に2回実施しているが、基本は原料価格の変動のみを反映して価格改定を実施し、原料以外のコストを価格改定に反映させることは習慣的に行われていなかった。本年7月に実施予定の小麦粉価格改定では輸送費の上昇を織り込む予定であるものの、その他のコスト上昇分については織り込んでいない。

Q：豪州製粉事業の土地、建物及び製造設備等のリース資産の買取りについて、いつ、どの程度の金額インパクトがでるのか。

A：豪州製粉事業は大部分の工場の土地、建物及び製造設備等がリースになっており、これらを将来的に買い取る可能性がある。現時点で買い取るかどうかは決定しておらず、手元資金活用の一つの選択肢として考えている。また、買取りの時期や金額についは、契約の相手方と協議の上決定するため未定である。

Q：今後、中期経営計画の最終年度の数値目標を見直すか検討するにあたり、2024 年度から中期経営計画の最終年度である 2026 年度までの期間は、基盤固めと位置づけているのか、もしくは利益成長と位置づけているのか教えて欲しい。

A：上期中に中期経営計画の最終年度である 2026 年度の数値目標を見直すかを検討し、その結果を 2024 年度の中間決算で示したい。2026 年度やさらにその先に向けて利益成長を実現していくためには、2024 年度以降の中期経営計画期間中に投資を加速し、しっかりとした事業基盤を構築すると同時に、利益成長も図っていきたい。

Q：中期経営計画の 5 年間で 2,500 億円程度の営業キャッシュフローを創出する計画だが、当初計画から営業キャッシュフローが上振れした場合、全て投資に使う予定なのか。

A：当社としては、これ以上手元資金を積み上げる必要はないと考えている。営業キャッシュフローや政策保有株式等の資産売却で得られたキャッシュは、基本的にはまず投資に使用し、投資と株主還元で全て使い切る予定である。

Q：積極的な投資を行うとのことだが、投資判断を行う際に収益性や資本効率は意識しているのか。

A：投資にも色々あり、例えば本日発表した新たな開発拠点（用賀オフィス（仮称））の建設は、それ自体がすぐに収益を生むわけではないが、社員が生き生きと働ける職場環境を整えることで、長期目線では収益を生み出していく。環境投資やＤＸ投資も同様の側面があるため、収益性や資本効率を意識しつつ、様々な観点から検討して投資判断をしていきたい。

Q：政策保有株式を今後 3 年間で 150 億円以上縮減するという方針は、資本市場が期待するスピード感より遅いと考えているが、縮減のスピード感を早めることができないのか。

A：政策保有株式を今後 3 年間で 150 億円縮減すること自体も簡単ではないと思っているが、外部にコミットしたことであり、責任をもって進めていきたい。資本市場が要求するスピードはこれを上回るものであるとは理解しているが、まずは 150 億円の縮減を実現したうえで、さらなる縮減が可能か社内で議論しながら進めていく。

Q：業績が拡大していく一方で、資本効率において課題があると考えているが、社長の考え方を教えてほしい。

A：ROE について、当社は食のインフラを支える企業としてある程度の自己資本を持っておくことが必要と考えている。資本の効率化に向けては、前期に酵母・バイオ事業の埼玉工場閉鎖といった対応も実施しており、政策保有株式の縮減も進めていく。また、さらなる利益成長も含め、分母と分子両面での対策を図ることで、ROE を上げていきたい。

以上